

# 「攻め」と「守り」の戦略で プロセス監査の効率向上

2007年10月31日(水)

キヤノンソフトウェア(株)

総合企画本部 技術企画部

和良品文之丞

# 目次

---

- 1 . 概要
- 2 . 背景
- 3 . 課題
- 4 . 攻めと守りの戦略
- 5 . 成果
- 6 . 今後の展開

# 1. 概要

## プロセス監査の課題

短期間・多PJ

正確な結果

現場負荷軽減



わかり易い報告

「攻め」と「守り」の戦略で両立

より効率化

結果を保証

PJ: プロジェクト

## 2. 背景

**CMMIに基づくプロセス改善を推進**

**06年4月 適用拡大、20プロジェクトへ展開**

**組織が定める重点プロセス4つ**

**組織の依頼で07年1月、全数を監査**

### 3. 課題

監査結果の正確性・妥当性の確保

現場(プロジェクト)の負荷の軽減

監査実施後、短期間で結果を報告

期間1ヶ月、プロジェクト20、監査員4名

## 4 . 攻めと守りの戦略

### 攻めの戦略：より効率を高める

インタビューの効率化

正確性の追求

報告作成の効率化

### 守りの戦略：最低限の結果を保証する

実効性の重視

オンサイト期間の短縮

文書チェックの精度向上

## 4.1. 「攻め」の戦略1/3

### インタビューの効率化



類似のプロジェクト2つを  
同時にインタビュー

類似：同じドメイン、同じ顧客部署、  
同じ技術要素、など



同一の質問に対しては、  
差分の回答を求める

質問：今の回答と同じですか？  
異なる点は何ですか？

# 4.1. 「攻め」の戦略2/3

## 正確性の追求



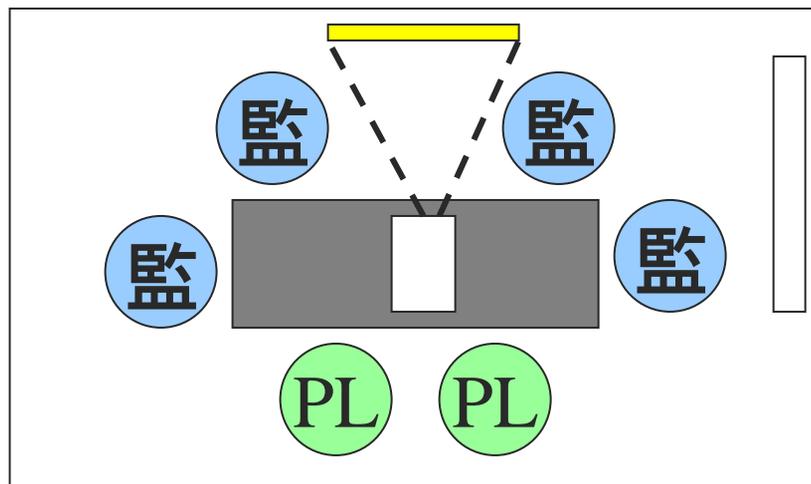
### プロジェクトの活用

実際の証拠物件をプロジェクトで  
投影し、具体的に質問・確認

インタビュールーム  
の配置例

**PL** プロジェクトリーダー

**監** 監査チーム員



## 4.1. 「攻め」の戦略3/3

### 報告作成の効率化



### 独自の評価基準による 実践状況の判定

プラクティスごとに実践レベルの  
評価基準を3つずつ設定  
実践状況の差異を明示

## 4.1. 「攻め」の戦略3/3-2

### 独自の評価基準の例(測定と分析)

プラクティス	評価基準 1	評価基準 2	評価基準 3
SP1.1 測定 目標の確立	証拠あり	指摘なし	証言あり
SP2.2 データ を分析する	グラフあり	分析結果 あり	マイルスト ンで報告
SP2.4 結果 を伝達する	結果資料 あり	議事録 あり	証言あり

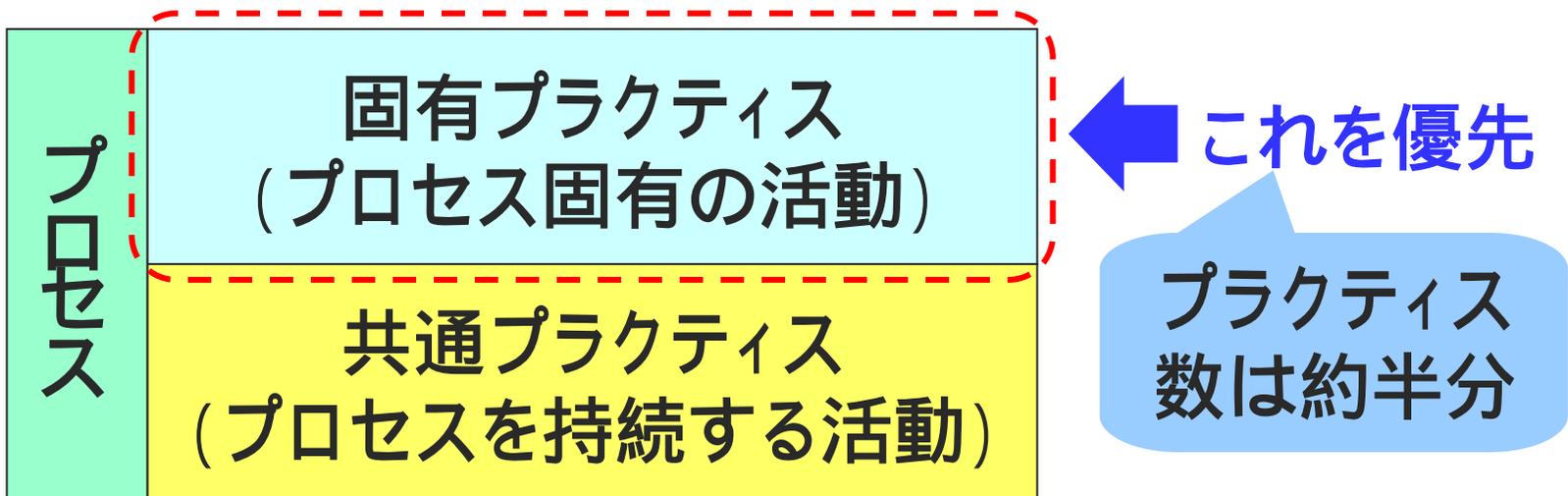
## 4.2. 「守り」の戦略1/3

### 実効性の重視



### プラクティスの絞込み

固有プラクティスのみを監査対象



## 4.2. 「守り」の戦略2/3

### オンサイト期間の短縮



#### インタビュー対象者の絞込み

インタビュー対象者: PLのみ  
(必要に応じ技術者やPMが同席)



#### 暫定所見発表の省略

代わりに、後日是正計画提出時点  
までに、異論、質問を受付

## 4.2. 「守り」の戦略3/3

### 文書チェックの精度向上



#### PIID の活用

プラクティスと成果物の関連が明確  
パイパーリンクにより参照効率向上

**PIID: Practice Implementation Indicator DB**  
プラクティスごとに証拠物件を一覧にしたもの  
正式アプレイザルで使用

## 4.2. 「守り」の戦略3/3-2

### PIIDの補足説明

プラクティス	サンプル	作成物	説明
SP1.1 測定目標の確立	プロジェクト計画書	PJ1_PP.xls	品質目標 測定目標
SP2.2 データを分析する	測定分析フォーム	PJ1_MA_F1.xls	分析結果 のコメント
SP2.3 データを格納する	測定リポジトリ	PJ1_MA_DB	フォルダ内 の各シート

実際の参照先にハイパーリンク

## 5 . 成果

実働12日、オンサイト8日で監査完了

短期間

プラクティスとインタビュー対象の  
絞込み

「妥当性」と「見える化」で高い評価

妥当性

PIIDとプロジェクタによる現場と  
の意思疎通

見える化

定量化 + グラフで報告

# 5.1. 短期間: 監査スケジュール

	月	火	水	木	金
第1週			環境設定	文書 チェック	文書 チェック
			文書 チェック		
第2週	文書 チェック	キックオフ	インタ ビュー 2	インタ ビュー 6	インタ ビュー 6
	(別件)		文書 チェック		
第3週	インタ ビュー 4	インタ ビュー 2	まとめ	結果報告	
	まとめ	まとめ			

## 5.2. 妥当性: 意思疎通

PIIDの活用

プラクティスと証拠物件  
の対応を現場側も意識

+

プロジェクトの活用

文書を素早く例示し  
具体的に内容を確認



意思疎通

正確で有益な回答

## 5.3. 見える化-1: 定量化

独自の評価基準



2値で評価  
(OK/NG / ×)

3つ評価基準から  
プラクティスを評価



3段階評価  
( / / ×)

3段階を数値化



: 2点、 : 1点  
× : 0点



プラクティス別、プロジェクト別に評価、集計

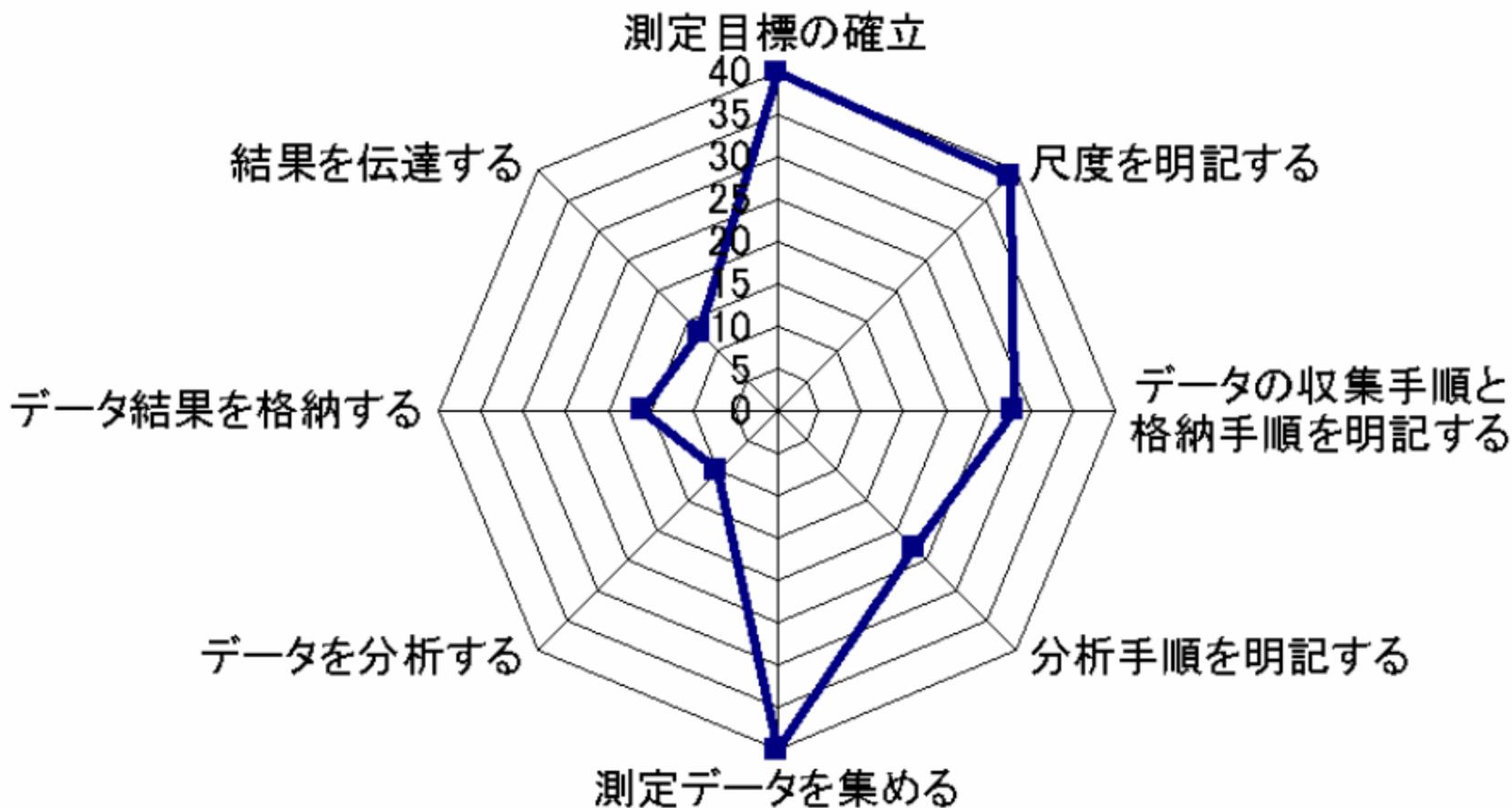
# 5.3. 見える化-1: 定量化-2

## 定量化の例 (測定と分析)

SP2.3 結果 を格納する	評価 基準 1	評価 基準 2	評価 基準 3	評価	得点
PJ-9					2
PJ-10	×		×		1
PJ-11		×			1
PJ-12	×	×	×	×	0
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

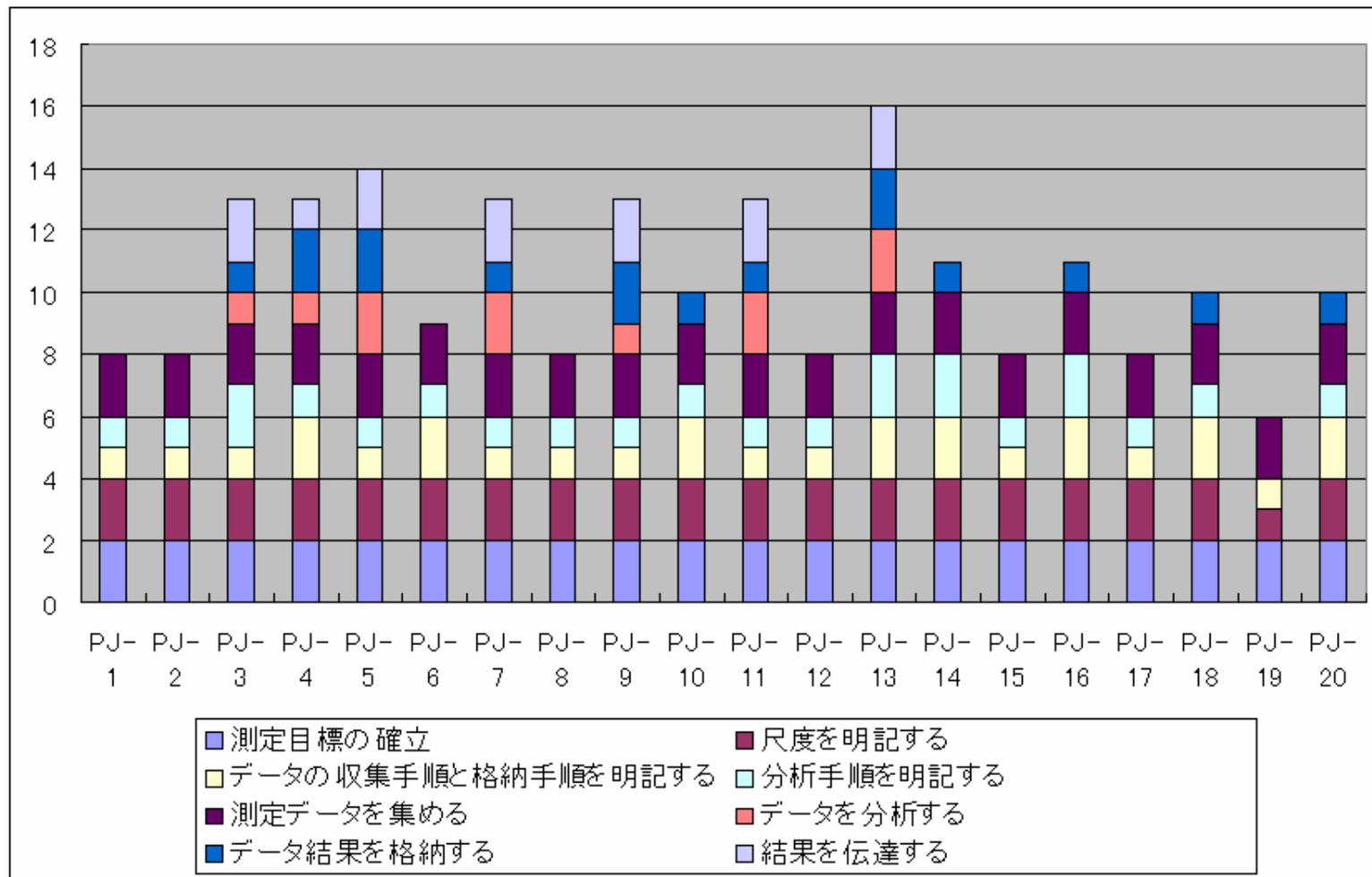
# 5.3. 見える化-2: グラフ化-1

## レーダーチャートによる全体傾向の見える化



# 5.3. 見える化-2: グラフ化-2

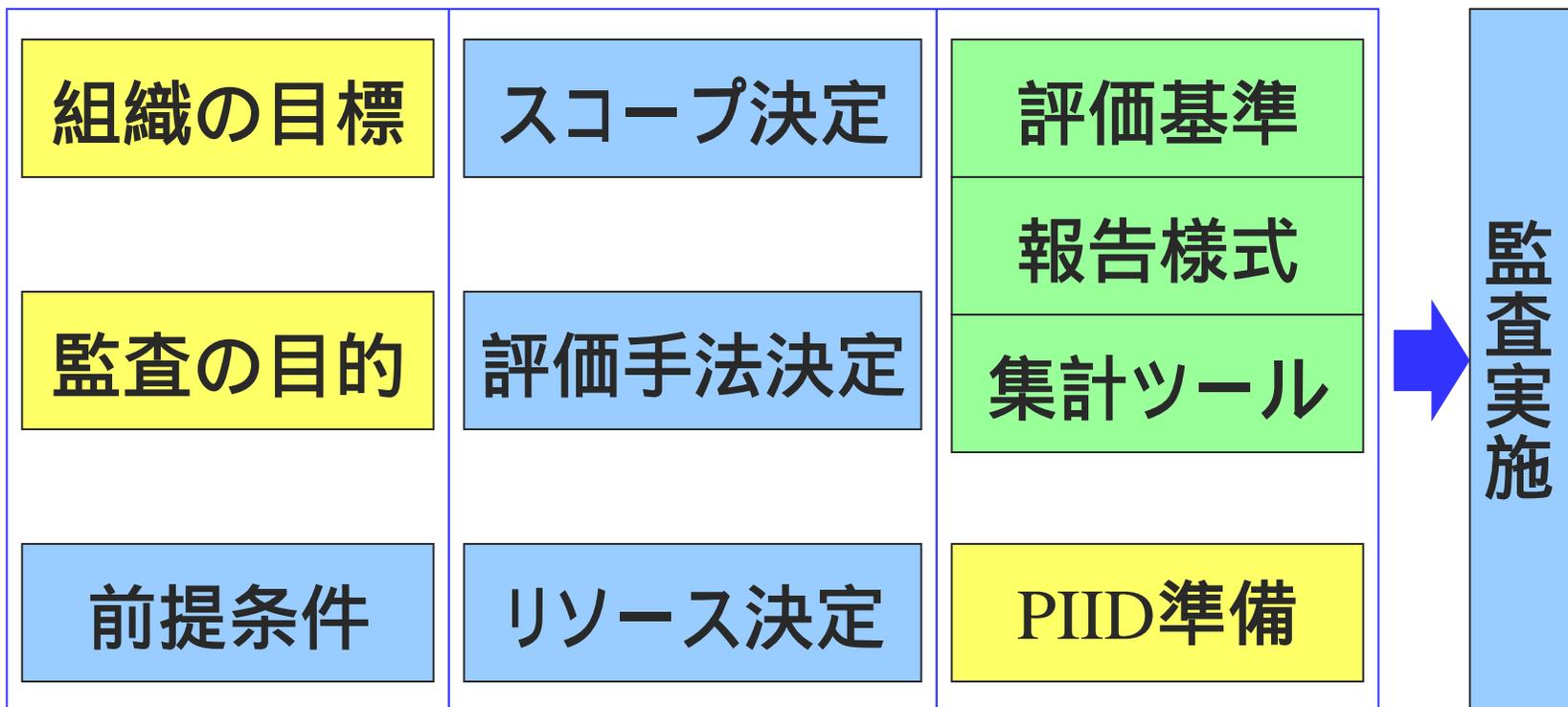
## 積み重ね棒グラフによるプロジェクト別の見える化



# 6. 今後の展開

より実践的な監査のフレームワークを確立

確認段階 ▶ 計画段階 ▶ 準備段階



# 「攻め」と「守り」の戦略で プロセス監査の効率向上

*Thank you*

*Q&A*